

令和 7 年度 学校経営環境分析書

外部環境	O (支援的要因) ① 自然が豊かで環境に恵まれている。 ② 校区内に保育所が1つ、中学校が1校あり、保小中連携が図りやすい。 ③ 銀行、病院、郵便局など概ね生活に重要な場所があり、生活しやすい。 ④ バス停が近く、多方面に移動できる。 ⑤ 保護者の学校活動への関心が高く協力的である。 ⑥ 地域の方が児童とのつながりを大切にしてくれている。 ⑦ AI型ドリル等、ICT環境が整備されている。	S (強み) ① 少人数であり、目が行き届き、個に応じたきめ細やかな指導ができる。 ② 教職員が協力的で、組織的に動くことができる。 ③ 小中連携が良好で、教育推進に前向きである。 ④ 素直で明るい児童が多い。 ⑤ 縦割りの活動により学年を超えての交流が盛んで、人間関係が良好である。 ⑥ 高学年が低学年のよい範を示している。 ⑦ 幼少期からほぼ同じ集団で育っており、互いをよく知っている。	内部環境	支援的要因と強みを生かした活動・取組は ○個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 ○児童の主体的な学びの推進 ○地域人材・資源を活用した学習活動の実施 ○ICTの積極的な活用 ○異年齢集団での活動や保・小・中合同行事の推進 ○コミュニティ・スクールの活用
	T (阻害的要因) ① 少子化や校区の広さから、児童の放課後・休日のかかわりが少ない。 ② 家庭間で教育活動に対する関心の差が見られる。 ③ 虫歯治療への意識が低い。 ④ 少人数の集団のため多様な考えに触れる機会が少ない。 ⑤ 校舎等が古い。特別教室のスペースが限られており、使いにくい。 ⑥ 近隣に大型店や公園・公共施設がない。 ⑦ 通学バスの本数が少ない。 ⑧ 土砂災害や津波による危険性が高い。	W (弱み) ① 児童数が少なく、活動が制限される。 ② 児童数が少ないため、教師が手をかけ過ぎる傾向がある。 ③ 授業を落ち着いて受けられる児童が多いが、学力の定着については個人差が大きい。 ④ 人間関係が固定化し、自己や他者に対する固定観念を払拭しにくい。 ⑤ 教職員数が少なく単学級のため、多様な実践に触れる機会が少ない。 ⑥ 教員の分掌等に係る負担が大きい。		阻害的要因と弱みを克服する活動・取組は ○校内外の他者との関わりを通して自己有用感を高める取組の推進 ○児童主体の行事や学習活動の推進 ○地域の災害リスクを踏まえた防災教育の充実 ○組織的・協働的な教職員集団づくり

2 重点課題

- ① 子どもが主体的に学ぶ授業づくり
 - 「個別最適な学び（指導の個別化と学習の個性化）」と「協働的な学び」の一体的な充実
 - 子どもが進める「めいとく・トライ」の推進
 - 特別支援や児童理解の視点を取り入れた一人一人に寄り添う教育活動の推進
 - ICTの効果的な活用
 - 児童の学習の課題に応じた「学習フリータイム」の充実
- ② 防災教育の深化と自己有用感の育成
 - 家庭・地域を巻き込んだ実践的な防災教育の取組
 - 異年齢や地域社会など、世代を超えての他者とかかわり合う場の設定
 - 児童生徒が主体となり、企画・運営する行事・学級活動の充実
 - 職員や児童相互が肯定的評価（ほめる・感謝する）する取組の継続
- ③ 安心・安全な教育環境の整備
 - 教職員による不祥事の根絶
 - 働き方改革の推進